

平成 26 年介護等体験談

社会福祉施設 2

今回、私は社会福祉施設での「介護等体験」で様々なことをさせていただき、いろいろなものを得ることができた。特に印象の強い事柄について、三点にまとめて感想を述べていきたいと思う。

まず一点目として、いわゆる「雑用」と呼ばれる類のものでも、それが入居している方々の安全で快適な生活に結びついているということである。今回の実習では、大半の時間をエプロンの洗濯や部屋の掃除などの「雑用」に費やしていた。最初は何も考えずに、ただひたすら作業をこなしていただけであったが、汚い部分をきれいにするととても気持ちがよくなり、徐々に掃除をすることが苦ではなくなっていたように思える。

さらに、「このようにきれいにすることで、入居している方々は気持ちのよい生活を送れるのではないか」ということを考えるようにもなった。また、入居している方から「ありがとう」という言葉をいただき、それがよりやる気につながっていたようにも思う。

このように「雑用」でも、考え方一つでそれが苦にもなり得るし、やりがいのあることにもなり得る。そのようなことを感じ取ることができるようになった。

次に二点目として、施設の職員の方々のきめ細やかな配慮というものがある。施設に提出した個人票にも書かせていただいたが、私は小学校三、四年生くらいの時、デイサービスの施設に訪問したことがあった。その時は、まだ考えがしっかりしていなかったことと、遊び感覚だったということで、デイサービスはとても楽しい場所だと認識していた。しかし、老人ホームやデイサービスといったところは楽しいだけの場所ではないと感じた。今回、職員の側に入って実習を行ってみて、食事の配膳、お茶の種類（とろみ、ゼリーなど）、水分摂取量、コミュニケーション、体の扱いなどの事柄について、少し油断して失敗してしまうと、それが命に関わることになるということを感じた。それを防ぐために、職員の間では密に連携がとられ、また入居者の方への声かけが頻繁になされていた。

このように私の中で、老人ホームやデイサービスといった施設は、ただ楽しいだけでなく、「常に気を張らなければならない」という重圧がかかる場所であるという認識の変化があり、事故を防ぐために職員間で密に連携をはかることや入居者の方への積極的な声かけなど、きめ細やかな配慮をしていることに気づいた。

最後に三点目として、これは私の反省点であるが、私は今回の実習で話をできる人ばかりに声をかけ、あまり話をしない人には声かけをしなかった。つまり話ができない人を避けていたのである。これは今回の実習で最も反省していることである。この反省をふまえ、将来教員になった時には、しっかり一人一人と向き合っていきたいと思う。